

科目名	臨床心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	西村 秀明	関連する資格	臨床心理士	

授業概要

臨床心理学の適用領域と臨床心理業務の実際について講義するとともに、各領域での事例を通して心理的援助の具体的方法について議論し学修する。

到達目標

各問題について、十分理解し、心理臨床に役立てることが可能になることを目標とする。

成績評価方法

定期試験及びレポート等により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○		○			20
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 臨床心理学の領域及び倫理綱領		
2) 気分障害を認めることのある神経症性障害		
3) 医療スタッフの連携及びケースマネジメント並びに自助グループについて		
4) 生活技能訓練SST		グループワーク
5) 心理劇Psychodrama		グループワーク
6) DSM診断基準 ()		課題に対する個人ワーク
7) DSM診断基準 ()		課題に対する個人ワーク
8) DSM診断基準 ()		課題に対する個人ワーク
9) 事例研究		グループワーク
10) 事例研究		グループワーク
11) 事例研究		グループワーク
12) 事例研究		グループワーク
13) 事例研究		グループワーク
14) 事例研究		グループワーク
15) 事例研究 / 及び総括		グループワーク/レポート
授業外学習		
心理臨床に関する文献、精神医学等の専門書において学習を重ねていくこと。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
DSM 医学書院		臨床心理学特論 はじめ、心理臨床に関する全科目

備考

科目名	臨床心理学特論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	1年	後期			
担当者名	高田 晃		関連する資格				
授業概要 臨床心理士の行う心理的支援について、歴史的、対象、具体的な活動（心理アセスメント、心理面接、心理的地域援助、臨床心理学的調査研究）について理解を深める。 臨床心理学的活動を行う際の倫理の問題について理解を深める。 決められた担当箇所についてまとめてレジュメを作成、それを基にプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションをする。							
到達目標 臨床心理学の基本的活動である（心理アセスメント、心理面接、心理的地域援助、臨床心理学的調査研究）を理解する。 臨床心理学における倫理の問題について理解する。			成績評価方法 授業態度、授業参加度 毎回のミニレポート 全ての授業を終了後、テーマを設定したレポート。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○		○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○		○		30
授業態度・授業参加度		○	○		○		25
プレゼンテーション	○	○	○		○		25
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 臨床心理学の成立と定義（APA, 日本の実情）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
2) 臨床心理学の独自性（その対象、実践の学、心理査定、心理面接、地域援助、研究調査）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
3) 臨床心理学の歴史的側面からの理解（諸外国）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
4) 日本の臨床心理学の歴史	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
5) 臨床心理士資格の誕生と展開	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
6) 臨床心理士の現状と今後の課題	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
7) 臨床心理学の対象（活動領域、クライアント）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
8) 臨床心理学の対象（治療教育と予防の統合）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
9) 臨床心理学の対象（取り扱う心の問題）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
10) 臨床心理学の援助論（心理的援助の内容）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
11) 臨床心理学の援助論（心理的援助の方法）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
12) 臨床心理学の援助論（心理的援助の学び方）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
13) 臨床心理学における倫理問題（職業的倫理の特性）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
14) 臨床心理学における倫理問題（実際の活動場面での倫理的トラブル）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
15) 臨床心理学における倫理問題（日本臨床心理士会倫理規定）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
授業外学習	
<p>発表者は担当単元のレジюмеを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 次回授業の単元を熟読し、ディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理学原論、大塚義孝編 誠信書房	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に臨床心理面接特論、 、臨床心理学特論

備考

オフィスアワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	心理学研究法特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格		

授業概要

心理学の研究を実施する上で必要な技術を学ぶ。まず研究倫理、テーマの見つけ方、先行研究の活用方法、研究計画の立て方、心理統計の基礎技術を学ぶ。各種の研究手法（質問紙法・面接法・観察法・実験法・質的研究法等）をグループワークで調べ発表する（研究中に必要な作業とその技法を用いた論文の紹介）。質問紙調査が中心となる。研究論文を実際に読む上で必要な知識を身につける。研究計画を立てる上で重要な研究倫理，研究成果を発表するためのプレゼンテーションについて学ぶ。

到達目標

研究倫理と研究方法を身につける。
 各自の興味関心を研究に結びつける。
 修士論文の詳細な研究計画を立案。
 共同研究の作法を身につける。
 研究成果を適切に発表できる。

成績評価方法

- ・グループワークの中での役割(30%)
- ・発表および討議への参加(30%)
- ・研究計画の完成度(40%)

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート	○	○	○	○	○		20	
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		20	
授業態度・授業参加度	○	○	○	○	○		15	
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		5	
グループワーク	○	○	○	○	○		20	
演習	○	○	○	○	○		10	
実習	○	○	○	○	○		10	

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) オリエンテーション(研究倫理) 研究への興味の啓発		
2) 研究を始めるにあたって、必要な思考方法を身につける(ブレインストーミング・KJ法)		ブレインストーミング グループワーク
3) 参考文献・資料の収集、読解、活用		体験学習
4) 先行研究の活用方法：批判的思考と統合的思考		体験学習
5) 研究計画の立て方		体験学習
6) 批判的思考(クリティカルシンキング)を学ぶ。		体験学習
7) 研究計画の立て方		体験学習
8) 文献研究の方法		体験学習
9) 質問紙法・面接法・観察法・実験法・質的研究法などの研究方法を理解する。		体験学習
10) 心理統計に関する基礎・活用方法・記述方法を、事例を通して学ぶ。		
11) 面接法を実際にグループで実施する。		実習グループワーク
12) 面接法を実施し、質的分析を行う。		グループワーク
13) 面接法による研究のレポートの書き方を学ぶ。		グループワーク
14) 研究計画を実施するためのグループワーク		グループワーク
15) 総括		
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
特に定めない。 自分の研究に関連のある文献を多く読み込むこと。 文献を探す協力は惜しまないので、遠慮なく申し出ること。		心理統計法演習

備考

科目名	心の健康教育に関する理論と実践			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	小山 典子	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

授業概要

心の健康を研究・教育する分野とは、心身の健康の保持・増進、疾患の予防を目的とする。また喫煙、飲酒、睡眠などライフスタイル、ストレス、性格などと深く関わっている。本講義では、自律訓練法の実習の他、受講生が各自興味ある領域、研究テーマを選択し、テーマに関する現状および問題点について調査・発表する。これにより、受講生が地域において心の健康についての啓蒙活動ができるようになることを目的とする。

到達目標

*心の健康教育に関することについて、理論及び現状や問題点を説明することができる。
*心の健康教育に関する実践として、自律訓練法などのリラクゼーション技法を適切に実施できる。
*相談者や地域の人々に対して、こころの健康についての啓蒙活動を行うことができる。

成績評価方法

授業内レポート(20%)
調査についての発表内容(50%)
演習・実習(30%)
以上の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							10
演習							10
実習							10

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 健康心理学とは	
2) 自律訓練法について 講義と実習	実習・グループワーク
3) フォーカシングについて 講義と実習	実習・グループワーク
4) 補完代替医療	実習・グループワーク
5) 健康とストレス	実習・グループワーク
6) ステージ変容理論	実習・グループワーク
7) 飲酒・喫煙と健康	実習・グループワーク
8) 睡眠・ライフスタイルと健康	実習・グループワーク
9) 健康に影響する性格/タイプA行動パターン	実習・グループワーク
10) 自己効力感	実習・グループワーク
11) アサーション	実習・グループワーク
12) バーンアウト	実習・グループワーク
13) コーピング	実習・グループワーク
14) リラクゼーション	実習・グループワーク
15) レジリエンス	実習・グループワーク
授業外学習	
<p>すべての受講生が自ら選んだテーマについて調査し、講義内で発表（パワーポイント使用）してもらう。 受講生は発表内容について積極的に質問・討論すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書：健康心理学概論，日本健康心理学学会編，実務教育出版 健康の心理学 心と身体の健康のために，春木豊他共著，サイエンス社</p>	産業・労働分野に関する理論と支援の展開

備考

科目名	乳幼児心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	太田 列子	関連する資格	臨床心理士	

授業概要

本講義では、乳幼児期の情緒発達、認知発達、社会性発達、道徳性発達について、主な理論や論文を紹介し、乳幼児についての理解を深める。乳幼児の対人世界を理解し、重要な養育者である親との相互作用について学ぶ。また、乳幼児の心理的問題や発達上の課題に対する「遊び」の治療的機能について概観することで、乳幼児とその養育者にとって必要な支援の在り方を考える。

到達目標

1. 乳幼児期の発達段階ならびに発達課題を理解する。
2. 母子相互作用における親役割の重要性を認識する。
3. 「遊び」の治癒的機能について学ぶ。
4. 乳幼児と養育者への適切な心理的援助方法を習得する

成績評価方法

課題への取り組み姿勢、授業への参加態度、レポート

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート	○	○					10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度			○	○	○		15
プレゼンテーション							
グループワーク			○	○	○		15
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 乳幼児の発達と成長：ライフサイクルにおける乳幼児期に付いて概観する。	授業外レポート課題
2) 情緒発達と認知発達：乳幼児の情緒発達，概念発達，知能の発達，思考の発達について学習する。	インタラクティブ・インストラクション
3) 愛着の形成と発達：愛着のタイプや測定法を学ぶ。また，乳幼児期にみられる愛着のタイプが後の対人関係形成にどのような影響を及ぼすかを理解する。	インタラクティブ・インストラクション
4) 親子関係と発達：親の躰・養育態度にはどのようなタイプがあるかを理解し，それらが子どもの社会的発達にどのような影響を与えるかについて学習する。	インタラクティブ・インストラクション
5) 仲間関係と発達：友だち概念や発達段階を知る。さらに愛他行動，向社会的行動，攻撃性という視点から仲間関係の在り方を考える。	インタラクティブ・インストラクション
6) 遊びの発達：遊びの種類および発達段階を学習する。また，遊び場面における対人葛藤やその解決方略を知り，介入の在り方を考える。	インタラクティブ・インストラクション
7) 発達課題と発達障害：乳幼児の心理的問題や発達上の問題・障害と心理査定法について学習する。	think-pair-share
8) 発達課題と発達障害：乳幼児の心理的問題や発達上の問題・障害と心理査定法について学習する。	think-pair-share
9) 遊びの治療的機能：子どもに対する心理療法としての遊び（遊戯療法）について理解する。	グループワーク、リフレクションカード、小レポート
10) 遊びの治療的機能：子どもに対する心理療法としての遊び（遊戯療法）について理解する。	グループワーク、リフレクションカード、小レポート
11) 遊びの治療的機能：子どもに対する心理療法としての遊び（遊戯療法）について理解する。	グループワーク、リフレクションカード、小レポート
12) 事例研究：事例をもとに，乳幼児期の心理的課題についての理解を深める。	ディスカッション、リフレクションカード
13) 事例研究：事例をもとに，母子相互作用に関する理解を深める。	ディスカッション、リフレクションカード
14) 事例研究：事例をもとに，親-乳幼児心理療法に関する理解を深める。	ディスカッション、リフレクションカード
15) まとめ：これまで学んできた事柄を振り返り，本講義での学びに付いて整理する。	課題レポート、リフレクションカード
授業外学習	
<p>レポート課題について，資料をもとにレポート（A4，3～4枚）を作成し、授業最終日に提出してください。授業毎にリフレクションカードと章レポートを提出して下さい。</p> <p>授業計画に沿って，事前に配布資料を熟読してきてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>適宜プリントを配布する。</p> <p>参考書： 親-乳幼児心理療法 D.N.スターン著 馬場禮子・青木紀久代 訳 岩崎学術出版社 乳児の対人世界（理論編・臨床編） D.N.スターン著 小此 木啓吾他訳 岩崎学術出版社</p>	<p>プレイセラピー演習</p>

備考

科目名	発達心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	木元 卓也、三島 瑞穂	関連する資格		

授業概要

発達とは、生涯にわたって質的・量的に変化していく過程として捉えられる。また、それぞれの発達段階には、達成すべき課題があり、この課題の達成をめくり、様々な問題が生じることがある。本講では、各発達段階に現れる問題について検討しながら、各発達段階の基本的知識と支援のあり方について概観する。

到達目標

1. 様々な視点から、各発達段階の特性が理解できる。
2. 各発達段階に現れる問題につき、様々な視点をふまえて、理解することができる。
3. 各発達段階に現れる問題につき、様々な視点をふまえて、支援のあり方がイメージできる。

成績評価方法

定期試験、受講態度・意欲で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					40
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							20
グループワーク			○		○		20
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ガイダンス、生涯発達心理学とは	授業内レポート
2) 発達支援の対象	グループワーク
3) 乳児期の理解と支援	グループワーク
4) 幼児前期の理解と支援	グループワーク
5) 幼児後期の理解と支援	グループワーク
6) 児童期の理解と支援	グループワーク
7) 思春期の理解と支援	グループワーク
8) 青年期の理解と支援	グループワーク
9) 成人前期の理解と支援	グループワーク
10) 成人中期の理解と支援	グループワーク
11) 成人後期の理解と支援	グループワーク
12) 死に係わる理解と支援	グループワーク
13) 発達障害の理解と支援	グループワーク
14) 発達障害の理解と支援	グループワーク
15) 発達障害の理解と支援	グループワーク
授業外学習	
本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、自分なりの理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要によりレジュメを配布する。 【参考書】 ガイドライン生涯発達心理学 ナカニシヤ出版	他の心理学関連科目全般

備考

オフィスアワー；毎週木曜日3限目(事前に連絡して下さい)

科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	高田 晃	関連する資格		

授業概要

産業・組織心理学の中でも、特に産業活動の効率化を目指す。人間関係やコミュニケーション、仕事に対するモチベーション、職場のメンタルヘルスに関する内容を扱う。
 特に厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」をもとに1次予防、2次予防、3次予防について理解していく。
 決められた担当箇所についてまとめてレジユメを作成、それを基にプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションをする。

到達目標

組織で働く人々の心や行動の特徴を説明できる。
 現代の産業が抱える課題を知り、心理学がその課題に対してどのように貢献できるか討議できる。
 職業性ストレスモデルについて説明できる。

成績評価方法

授業態度、授業参加度
 毎回のミニレポート
 全ての授業を終了後、テーマを設定したレポート。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○		○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○		○		30
授業態度・授業参加度		○	○		○		25
プレゼンテーション	○	○	○		○		25
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 産業・組織心理学とは	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
2) 産業・組織心理学が扱うテーマ 組織行動、人事、安全衛生、消費者行動	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
3) 労働者の心の健康保持増進のための指針 電通事件、安全配慮義務	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
4) メンタルヘルスのための4つのケア	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
5) 職業性ストレスモデルの理解	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
6) 心の健康とストレス	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
7) ストレッサー（職場の3大ストレス）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
8) 仕事の要求度とコントロールモデル 努力-報酬不均衡モデル	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
9) 個人要因の問題 タイプA・B・C、認知のゆがみ	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
10) 緩衝要因、人間関係とストレス、 ソーシャルスキル、ソーシャルサポート	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
11) ストレス反応とメンタルヘルス不調	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
12) 問題解決とラインケア	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
13) ハラスメント問題（セクハラ、パワハラ等）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
14) 1次予防、2次予防、3次予防（リワーク支援）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
15) 産業・組織心理学の領域での支援活動	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
授業外学習	
<p>発表者は担当単元のレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 発表者以外の者は次回授業の単元を熟読し、ディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
職場における心の健康づくり、厚生労働省	社会心理学特論・健康心理学特論

備考

オフィスアワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	保健医療分野に関する理論と支援の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	秋元 隆志	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

保健医療分野は科学的進歩が目覚ましい領域ですが、基本的に対人援助の仕事ですので、臨床心理学的視点が不可欠です。この授業では、保健医療分野活動の現在の状況を概観し理解するとともに、この領域での心理士に対する要請がどのようなものであるかを考えます。

到達目標

保健医療分野の中でも、精神医学を中心に、現在の状況を理解する。各疾病に対する知識を深めるとともに、チーム医療サイドと患者サイドからの、心理士への要請を考察する。

成績評価方法

定期試験、及びレポート等により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 精神医学の成り立ちと歴史	
2) 精神科症状学と精神科診断学	
3) 精神薬理学	
4) 統合失調症	
5) 統合失調症	
6) 気分障害 うつ病	
7) 気分障害 双極性障害	
8) ストレス関連障害 (神経症)	
9) ストレス関連障害 (神経症)	
10) パーソナリティ障害	
11) 摂食障害、依存	
12) 意識、睡眠、身体疾患に伴う精神障害	
13) 認知症、老年精神医学	
14) 緩和ケア、痛み、周産期医療	
15) 小児精神医学	
授業外学習	
心身医学、精神医学等の専門書において学習を深めておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

備考

科目名	看護臨床心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	小山 典子	関連する資格		

授業概要

ヒューマン・ケアの現場では、患者の痛み・苦しみを聴くだけでなく、その人の人生そのものに歴史に触れることになる。すなわち、専門知識・技術に加えて、患者の社会・文化的背景を傾聴し、豊かな感情交流の能力が求められる。患者・高齢者や家族、子どもの心理を理解し感情交流の質を上げるために必要な心理臨床を事例など用いて学ぶ。

到達目標

ケアされる側の社会・文化的背景を理解する。
対人援助職に求められるニーズを把握し、必要な心理的支援を説明できる。

成績評価方法

発表資料準備・プレゼンテーション
グループワーク
以上の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度					○		10
プレゼンテーション				○	○		30
グループワーク	○	○	○				30
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) それぞれの世代の社会文化的背景の心理学的問題について対人援助職としての理解を深める	看護心理臨床にかかわる論文を各自選び発表の順番を決める
2) 病院臨床における患者の心理	グループワーク
3) 小児看護と心理臨床	学生によるプレゼンテーション グループワーク
4) 発達障害の理解と心理臨床	学生によるプレゼンテーション グループワーク
5) 精神科看護の心理臨床	学生によるプレゼンテーション グループワーク
6) 児童・思春期心身症の看護と心理臨床	学生によるプレゼンテーション グループワーク
7) 慢性疾患の看護と心理臨床脳器質性疾患の看護・介護と心理臨床	学生によるプレゼンテーション グループワーク
8) 脳器質性疾患の看護・介護と心理臨床	学生によるプレゼンテーション グループワーク
9) 妊娠・出産の看護と心理臨床	学生によるプレゼンテーション グループワーク
10) ガン患者の痛みと心理臨床	学生によるプレゼンテーション グループワーク
11) 高齢者看護・介護と心理臨床	学生によるプレゼンテーション グループワーク
12) ターミナルケアの心理臨床 終末期患者と死の受容	学生によるプレゼンテーション グループワーク
13) 難病患者への心の支援	グループワーク
14) 家族を支える看護と心理臨床	グループワーク
15) これまで学んだことについてふりかえり	グループワーク
授業外学習	
地域社会の情報から特に医療・看護における心理学的なアプローチが必要と思われるエピソードについて日ごろから考察する。各受講生が自ら選んだ研究論文を理解しまとめ考察する。その内容の資料（パワーポイント可）を作成し発表する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書： 人間理解の心理学 こころの物語のよみ方，岡堂哲雄 監修，新曜社 心理臨床的支援の方法 カウンセリングのすすめ，菅佐和子 編，新曜社</p>	<p>患者論 精神医学特論 心身医学特論</p>

備考

科目名	心理統計法演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	2	2年	前期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格		

授業概要

心理学の研究を実施する上で必要な技術を学ぶ。まず研究倫理、テーマの見つけ方、先行研究の活用方法、研究計画の立て方、心理統計の基礎技術を学ぶ。各種の研究手法（質問紙法・面接法・観察法・実験法・質的研究法等）をグループワークで調べ発表する（研究中に必要な作業とその技法を用いた論文の紹介）。質問紙調査が中心となる。研究論文を実際に読む上で必要な知識を身につける。研究計画を立てる上で重要な研究倫理，研究成果を発表するためのプレゼンテーションについて学ぶ。

到達目標

研究倫理と研究方法を身につける。
 各自の興味関心を研究に結びつける。
 修士論文の詳細な研究計画を立案。
 共同研究の作法を身につける。
 研究成果を適切に発表できる。

成績評価方法

- ・グループワークの中での役割(30%)
- ・発表および討議への参加(30%)
- ・研究計画の完成度(40%)

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○	○	○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		20
授業態度・授業参加度	○	○	○	○	○		15
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		5
グループワーク	○	○	○	○	○		20
演習	○	○	○	○	○		10
実習	○	○	○	○	○		10

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション(研究倫理) 研究への興味の啓発	
2) 研究を始めるにあたって、必要な思考方法を身につける(ブレインストーミング・KJ法)	ブレインストーミング グループワーク
3) 参考文献・資料の収集、読解、活用	体験学習
4) 先行研究の活用方法：批判的思考と統合的思考	体験学習
5) 研究計画の立て方	体験学習
6) 批判的思考(クリティカルシンキング)を学ぶ。	体験学習
7) 研究計画の立て方	体験学習
8) 文献研究の方法	体験学習
9) 質問紙法・面接法・観察法・実験法・質的研究法などの研究方法を理解する。	体験学習
10) 心理統計に関する基礎・活用方法・記述方法を、事例を通して学ぶ。	
11) 面接法を実際にグループで実施する。	実習グループワーク
12) 面接法を実施し、質的分析を行う。	グループワーク
13) 面接法による研究のレポートの書き方を学ぶ。	グループワーク
14) 研究計画を実施するためのグループワーク	グループワーク
15) 総括	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
特に定めない。 自分の研究に関連のある文献を多く読み込むこと。 文献を探す協力は惜しまないので、遠慮なく申し出ること。	心理統計法演習

備考

科目名	教育分野に関する理論と支援の展開						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	1年	前期			
担当者名	高田 晃		関連する資格				
授業概要 学校カウンセリングについて、基本的な知識と技術を養成することを目的とする。 そのため、学校カウンセリングにおいて問題となる種々の事項について、講義するとともに学生自身が文献をもとに研究する。 また、不登校や発達障害などをはじめとして、学校カウンセリングで取り扱う事例を紹介し、その討議をとおして理解を深める。 発表者は決められたテーマについてまとめてレジユメを作成、それを基にプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションし理解を深めていく。							
到達目標 学校場面での問題行動について理解し意見を述べることができる。 学校カウンセリングについて、基本的知識と技術を説明できる。 学校場面での具体的活動について理解し説明できる。			成績評価方法 毎回のミニレポート 全ての授業を終了後、テーマを設定したレポート。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○		○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○		○		30
授業態度・授業参加度		○	○		○		25
プレゼンテーション	○	○	○		○		25
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
2) 学校カウンセリング体験の紹介	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
3) 学校カウンセリングの取り入れられた背景	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
4) 学校組織と学校カウンセリング	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
5) 学校カウンセラーの活動内容	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
6) 学校カウンセリングの特徴	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
7) 教師との連携	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
8) 保護者との連携	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
9) 不登校と学校カウンセリング	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
10) 非行と学校カウンセリング	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
11) 発達障害と学校カウンセリング	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
12) 緊急支援（被害・被災）と心のケア	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
13) 教師のカウンセリング	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
14) 山口県の現状と課題 （学校カウンセラーになるための心得と準備）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
15) 総括	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
授業外学習	
<p>発表者は担当単元のレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 次回授業のテーマについて文献で調べ、ディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
授業の都度、紹介する。	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に臨床心理面接特論、臨床心理学特論

備考

オフィスアワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	小川 昭	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

家族とは何かを問い、家族成立のための構成要素を検討するとともに、家族関係の中で起こる様々な問題を考察する。その家族問題に対する心理的援助法の概略を学ぶ。地域社会における家族等への支援について理解を深め、集団的な心理支援や個別のケースにかかわる心理支援を検討していく。

到達目標

1. 様々な家族形態があることを理解し、自らの価値観を押し付けることなく家族への心理支援ができるようになる。
2. 様々な家族問題に対し、各構成員の立場に立った見方が出来るようになる。そして、具体的な支援方法がイメージできるようになる。
3. 家族関係が起因した様々な問題を、集団や地域社会における支援において心理的な支援の役割を理解し実践できる。

成績評価方法

レポート、演習、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク			○		○		10
演習							20
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 家族の構成要素の考察	グループワーク
2) 家族構成委員の役割(1)	グループワーク
3) 家族構成委員の役割(2)	グループワーク
4) 機能不全家族とは	グループワーク
5) 機能不全家族で育った人への心理支援 自助グループにおける心理支援	グループワーク
6) 家族療法(1)	グループワーク
7) 家族療法(2)	グループワーク
8) 家族療法(3)	グループワーク
9) 家族問題への心理支援の実践(1)	演習
10) 家族問題への心理支援の実践(2)	演習
11) 家族問題への心理支援の実践(3)	演習
12) 家族関係の問題(虐待・DV等)	グループワーク
13) 問題を抱えた人への集団的支援(自助グループへの関わり)	グループワーク
14) 家族関係の問題(虐待・DV等)への地域社会における心理支援	グループワーク
15) 家族関係・集団・地域社会における心理支援とは(まとめ)	グループワーク
授業外学習	
本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、自分なりの理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 必要に応じてレジュメを配布する。 【参考書】 家族臨床心理学の基礎 北樹出版	心理学関連科目全般

備考

オフィスアワー；講義終了後、質問を受け付ける。

科目名	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	周布 恭子、勝田 浩章	関連する資格	臨床心理士 公認心理師受験資格	

授業概要

非行や犯罪について各種制度や理論を概観するとともに、犯罪被害についての基本的知識を習得する。また、矯正施設で行われている取組を紹介しながら、非行少年に対する理解や対応、心理に関する支援方法への知見を深める。

到達目標

1. 非行・犯罪に関する法律や処遇について理解できる。
2. 非行の理解と支援のために必要となる知識が理解できる。
3. 非行少年に対する支援の在り方について考察できる。

成績評価方法

定期試験、受講態度・意欲で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 非行臨床における支援の対象に関する基礎理論 ガイダンス・非行臨床心理学概論	授業内レポート
2) 非行臨床に関する基礎理論 非行少年と非行性に対する理解	
3) 非行臨床における基礎理論 少年法と非行臨床	
4) 様々な少年非行の実際 万引き	
5) 様々な少年非行の実際 薬物非行	
6) 様々な少年非行の実際 性非行と女子非行	
7) 様々な少年非行の実際 暴力非行・暴走族	
8) 様々な少年非行の実際 いじめと児童虐待	
9) 矯正処遇における心理臨床 精神分析学	
10) 矯正処遇における心理臨床 家族療法	
11) 矯正処遇における心理臨床 認知行動療法	
12) 矯正処遇における心理臨床 非行カウンセリング	
13) 矯正処遇における心理臨床 援助技法の実際（ロールレタリングを用いた対応）	グループワーク
14) 矯正処遇における心理臨床 援助技法の実際（マインドフルネス、フォーカシングなどの技法を用いた対応）	グループワーク
15) 修復的司法・まとめ	授業内レポート
授業外学習	
本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、自分なりの理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じてレジュメを配布する。 【参考書】 ・犯罪・非行の心理学 有斐閣ブックス ・非行臨床の新潮流 金剛出版	心理学関連科目全般

備考

科目名	福祉分野に関する理論と支援の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	宮崎 博子	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

公認心理師の働く福祉分野は乳幼児期から高齢期までの人々を対象としており、さまざまな心理社会的課題を抱えている。それぞれの福祉現場においての適切な支援ができるよう学ぶ。

到達目標

1. 各福祉分野における実践内容を理解できる。
2. 各福祉分野における必要な支援について説明できる。

成績評価方法

定期試験、受講態度・意欲で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ガイダンス、公認心理士が働く福祉現場の実情と課題	授業内レポート
2) 各福祉現場における支援 (1) 児童福祉施設	グループワーク
3) 各福祉現場における支援 (2) 児童相談所	グループワーク
4) 各福祉現場における支援 (3) 児童相談所	グループワーク
5) 各福祉現場における支援 (4) 障害者総合支援法による障害者支援の施設	グループワーク
6) 各福祉現場における支援 (5) 障害者総合支援法による障害者支援の施設	グループワーク
7) 各福祉現場における支援 (6) 就学前の子どもを対象とした保育施設	グループワーク
8) 各福祉現場における支援 (7) 就学前の子どもを対象とした保育施設	グループワーク
9) 各福祉現場における支援 (8) 生活保護法に規定されている施設	グループワーク
10) 各福祉現場における支援 (9) 老人福祉施設(老人保健施設・養護老人ホーム・グループホーム等)	グループワーク
11) 各福祉現場における支援 (10) 地域包括支援センター	グループワーク
12) 各福祉現場における支援 (11) 発達障害者(児)に対する支援	グループワーク
13) 各福祉現場における支援 (12) 発達障害者(児)に対する支援	グループワーク
14) 各福祉現場における支援 (13) 生活困窮者・貧困家庭及び子どもに対する支援	グループワーク
15) 各福祉現場における支援 (14) 関係機関及び多職種連携、職員への心理的支援	グループワーク
授業外学習	
本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、自分なりの理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 必要に応じて、レジメを配布する。 【参考書】 開講時に示す	心理学関連科目全般

備考

オフィスアワー；毎週木曜日3限目(事前に連絡して下さい)

科目名	心理支援に関する理論と実践			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	西村 秀明	関連する資格	公認心理師、臨床心理士	

授業概要

臨床心理面接は対人援助を行う際に用いられる最も重要な方法である。本講義ではまず、初回面接に必要な人間関係の構築から情報収集の仕方、見立てについて学び、次にロール・プレイを行うことにより、基本的な面接の技法を体験する。これを基礎として、様々な心理療法について学習する。具体的には以下のとおりである。

1) 力動論に基づく心理療法の理論と方法。2) 行動論、認知論に基づく心理療法の理論と方法。3) その他の心理療法各種の理論と方法。4) 心理に関する相談、助言、指導等への各種心理療法の応用。5) クライアントの特性や状況に応じた適切な支援方法の選択、調整。

到達目標

- ・初回面接での注意点、見立て、情報収集の仕方を理解する。
- ・どのような態度、聴き方が相手の話を促し、または妨げるのかを説明できる。
- ・体験過程スケールを学び、クライアントの発言について、内省の度合いを評価できる。
- ・さまざまな心理療法の技法（力動論に基づく心理療法、行動論・認知論に基づく心理療法、その他各種の心理療法）に触れ、それぞれの立場によるアプローチの違いを認識するとともに、それぞれの特性を持ったクライアントにふさわしい援助計画が構築できる。

成績評価方法

定期試験、及び課題に対するシミュレーションでの対応技能により総合的に判断する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)	○	○		○			50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度		○	○		○		20
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 面接技法 ()	
2) 面接技法 ()	
3) 面接技法 ()	
4) 面接技法 ()	
5) 面接技法 ()	
6) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
7) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
8) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
9) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
10) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
11) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
12) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
13) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
14) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
15) 面接の実際～シミュレーションによる検討 ()	グループワーク
授業外学習	
種々ある心理面接に関する文献を学習し、各技法について周知しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じて資料を配布する。	臨床心理学特論 ・ 、保健医療分野に関する理論と支援の展開、心の健康教育に関する理論と実践

備考

科目名	臨床心理面接特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	高田 晃	関連する資格		

授業概要

臨床心理学の領域では、さまざまな理論や学派が存在する。対人援助としての臨床心理面接では、理論的背景やその理論に基づき面接の技法も大きく異なる。その中でも各学派に何らかの影響を及ぼしたと思われる精神分析について、実際の面接場面でのやり取りを想定し、その用語や理論について学び理解を深める。事前配布の資料を熟読後練習問題をやって授業に参加し、それを基に議論を深めていく。

到達目標

精神分析的な心理支援について、その理論や専門用語を理解し説明できる。
その理論をもとに、クライアントの内的世界について議論できる。

成績評価方法

毎回の授業内ミニレポート。
全ての授業終了後、テーマを決めたレポートを提出

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○				40
宿題、授業外レポート	○	○	○				30
授業態度・授業参加度			○				30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 精神分析の定義（精神分析的心理療法とは）	ミニレポート、プレゼンテーション、ディスカッション
2) 診断面接	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
3) 教育分析（治療者自身の思考の歪み）	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
4) 治療契約	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
5) 治療同盟	ミニレポート、プレゼンテーション、ディスカッション
6) 転移（転移とは、なぜおこるのか）	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
7) 転移解釈（どのように扱うのか、解釈の実際）	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
8) 逆転移（逆転移への気づき）	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
9) 夢の理解（無意識への王道）	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
10) 治療抵抗	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
11) 徹底操作	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
12) 徹底操作	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
13) 治療終結	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
14) 治療者の資質	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
15) 総括	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
授業外学習	
<p>次回授業の単元を熟読し、練習問題のやっておく。 練習問題の答えを基にディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。 次回授業で織り上げられる専門用語について、事前に調べ理解しておく。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>その都度、次回のプリントを配布する。 参考文献 『精神分析理論と臨床』北山修、2001年、誠信書房 『図説 臨床精神分析学』前田重治、1985年、誠信書房</p>	臨床心理面接特論I

備考

オフィスアワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	認知心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	酒木 保	関連する資格		

授業概要

この講義では、行動療法の基礎概念を理解し、認知療法を理解する。さらに、この両者を統合化して、認知行動療法が確立された過程を説明する。また、事例を通して認知行動療法の実際を学び、臨床に活用できるように技術習得を目指す。

到達目標

認知行動療法を理解する。
実際に認知行動療法を体験する。

成績評価方法

授業態度、授業の出席率、授業内レポートなどによる。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○			○			70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習				○			30

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 全体のガイダンス	
2) 認知について学ぶ	
3) メタ認知について学ぶ	
4) 学習の基礎理論	
5) 行動と学習	
6) 認知と行動	
7) 行動と認知	
8) 認知が変わると行動が変わることの原理	
9) 行動が変わると認知が変わることの原理	
10) 認知行動療法の実際 1	
11) 認知行動療法の実際 2	
12) プログラムを組み立てる 1	
13) プログラムを組み立てる 2	
14) 組み立てたプログラムの適用 1	
15) 組み立てたプログラムの適用 2	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じて、参考書を紹介する。	行動療法、臨床心理基礎実習

備考

科目名	プレイセラピー演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	2	1年	前期			
担当者名	酒木 保		関連する資格				
授業概要 遊戯療法は遊びを媒介とした、治療法である。遊びには能動的遊びと受動的遊びがある。この二つの遊びのスタイルを、その都度振り替えながら治療を展開していくのである。ここでは、事例を通してこの二つの遊びのスタイルについて学ぶ。							
到達目標 遊びは実際に体験してみないと、遊びの治療的意味を習得するのは困難である。ここでは遊びの実際から、治療への理解を習得するのを目的とする。			成績評価方法 出席と試験による。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○						50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート				○			30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習				○			20

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 遊びについて	
2) 遊びと治療	
3) 能動的遊び 1	
4) 能動的遊び 2	
5) 受動的遊び 1	
6) 受動的遊び 2	
7) 遊びと文化 日本の遊び	
8) 遊びと文化 中国の遊び	
9) 集団遊び 1	
10) 集団遊び 2	
11) 構成的遊び 1	
12) 構成的遊び 2	
13) 事例研究	
14) 事例研究	
15) 総括	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
遊戯療法の研究 日本遊戯療法学会編	

備考

科目名	心理的アセスメントに関する理論と実践						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	2	1年	後期			
担当者名	酒木 保		関連する資格				
授業概要 主にテストバッテリーを組んで、実際に心理検査を体験し、その結果の書見をかく。また、その試験に対して、修正し加筆する。実質的、具体的な演習となる。							
到達目標 心理検査を理解し、それらを十分に利用できる能力を養う。また、心理所見がきっちり書けることを目標とする。				成績評価方法 報告書の提出			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○		○			50
宿題、授業外レポート				○			50
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 心理検査についての一般的理解	
2) 質問紙法についての臨床的応用	
3) 投映法についての臨床的応用	
4) 精神作業検査法についての臨床的応用	
5) 検査についての臨床的応用	
6) 知能検査についての臨床的応用	
7) 事例研究 境界性人格障害について	
8) 事例研究 うつ病について	
9) 事例研究 気質疾患について	
10) 描画法により心理査定	
11) 質問紙法と投映法	
12) 投映法を描画法	
13) 質問紙法と描画法	
14) 予備日	
15) 総括	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、プリントを用意する。	臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ

備考

科目名	投映法特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	酒木 保	関連する資格		

授業概要

心理検査の中でも特に習得の困難なロールシャッハ法について学習する。
各テストの実施法、採点法、解釈法を多くの実際例について学習する。
なお、ロールシャッハ法には、種々の立場があるが、ここでは、主として、片口・クロッパー法を用いる。

到達目標

ロールシャッハ法について基本的な実施、解釈が可能になること

成績評価方法

事例を提出し、その採点、解釈を課してその達成程度で評価する。出席も重視する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○						50
小テスト、授業内レポート		○					20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							30

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) オリエンテーション、実施法		
2) 実施法、実習（ロールシャッハ法）		
3) 採点法の基本		
4) 採点法 1		
5) 採点法 2		
6) 解釈法 1		
7) 解釈法 2		
8) 解釈法 3		
9) 実際例 1		
10) 実際例 2		
11) 実際例 3		
12) 実際例 4		
13) 実際例 5		
14) 実際例 6		
15) 総括		
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
小野和雄；ロールシャッハテストその実施、解釈、臨床例 川島書店（教科書） 片口安史；新・心理診断法 金子書房（参考書）		投映法演習、臨床心理査定特論、ほか心理臨床に関する全科目

備考

科目名	臨床心理基礎実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	1年	通年(前期)
担当者名	高田 晃、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

臨床心理基礎実習は、心理臨床を実際に行って行くに当たっての訓練である。従って、電話受付やクライアントへの連絡など、実務も体験する。事例研究に参加したり、後期からは教員の面接の陪席を行いそのケースについてケースカンファレンスで中心的に発表したりして、臨床実践の基礎を体験的に習得する。

到達目標

実践のための基礎的な実務の能力を身に付けることを目的とする。

成績評価方法

用意された課題をこなすことが条件であり、実際に実務を行うことが条件となる。その取り組みの姿勢を見て総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		80

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 受付業務の見学 1 2) 受付業務の見学 2 3) 実際に受付業務を体験する 1 4) 実際に受付業務を体験する 2 5) 電話受付の見学 6) 電話受付の体験 1 7) 電話受付の体験 2 8) ケースカンファレンスの司会進行 1 9) ケースカンファレンスの司会進行 2 10) ケースカンファレンスの司会進行 3 11) カンファレンスで発表された内容のまとめ 1 12) カンファレンスで発表された内容のまとめ 2 13) カンファレンスで発表された内容のまとめ 3 14) 教員のおこなうケースの陪席 1 15) 教員のおこなうケースの陪席 2 16) 教員のおこなうケースの陪席 3 17) 陪席ケースの報告 1 18) 陪席ケースの報告 2 19) 陪席ケースの報告 3 20) 外部招待者の事例検討会への出席 1 21) 外部招待者の事例検討会への出席 2 22) 外部招待者の事例検討会への出席 3 23) 陪席事例に対するグループ討議 1 24) 陪席事例に対するグループ討議 2 25) 陪席事例に対するグループ討議 3 26) 事例に対する基本姿勢の習得 1 27) 事例に対する基本姿勢の習得 2 28) 予備日 29) 予備日 30) 統括	実習 プレゼンテーション ディスカッション
授業外学習	
<p>個々のケースについて、症状、用いられる心理治療について、よく調べて理解したうえで治療場に臨むことが前提となる。ケース記録は速やかにいけいケース担当教員に提出しSVを受ける。</p> <p>ケースカンファレンスで発表する際は、事前に資料を作成し担当教員の確認を得て、プレゼンテーションに臨む。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理学全集、誠信書房	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に臨床心理面接特論、臨床心理学特論

備考

分からなこと疑問に思ったことは直ぐにSVに尋ねる。

科目名	臨床心理基礎実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	1年	通年(後期)
担当者名	高田 晃、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

臨床心理基礎実習は、心理臨床を実際に行って行くに当たっての訓練である。従って、電話受付やクライアントへの連絡など、実務も体験する。事例研究に参加したり、後期からは教員の面接の陪席を行いそのケースについてケースカンファレンスで中心的に発表したりして、臨床実践の基礎を体験的に習得する。

到達目標

実践のための基礎的な実務の能力を身に付けることを目的とする。

成績評価方法

用意された課題をこなすことが条件であり、実際に実務を行うことが条件となる。その取り組みの姿勢を見て総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		80

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 受付業務の見学 1 2) 受付業務の見学 2 3) 実際に受付業務を体験する 1 4) 実際に受付業務を体験する 2 5) 電話受付の見学 6) 電話受付の体験 1 7) 電話受付の体験 2 8) ケースカンファレンスの司会進行 1 9) ケースカンファレンスの司会進行 2 10) ケースカンファレンスの司会進行 3 11) カンファレンスで発表された内容のまとめ 1 12) カンファレンスで発表された内容のまとめ 2 13) カンファレンスで発表された内容のまとめ 3 14) 教員のおこなうケースの陪席 1 15) 教員のおこなうケースの陪席 2 16) 教員のおこなうケースの陪席 3 17) 陪席ケースの報告 1 18) 陪席ケースの報告 2 19) 陪席ケースの報告 3 20) 外部招待者の事例検討会への出席 1 21) 外部招待者の事例検討会への出席 2 22) 外部招待者の事例検討会への出席 3 23) 陪席事例に対するグループ討議 1 24) 陪席事例に対するグループ討議 2 25) 陪席事例に対するグループ討議 3 26) 事例に対する基本姿勢の習得 1 27) 事例に対する基本姿勢の習得 2 28) 予備日 29) 予備日 30) 統括	実習 プレゼンテーション ディスカッション
授業外学習	
<p>個々のケースについて、症状、用いられる心理治療について、よく調べて理解したうえで治療場に臨むことが前提となる。ケース記録は速やかにいいケース担当教員に提出しSVを受ける。</p> <p>ケースカンファレンスで発表する際は、事前に資料を作成し担当教員の確認を得て、プレゼンテーションに臨む。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理学全集、誠信書房	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に臨床心理面接特論、臨床心理学特論

備考

分からなこと疑問に思ったことは直ぐにSVに尋ねる。

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	4	1年	通年(前期)
担当者名	西村 秀明、小山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格	公認心理師、臨床心理士	

授業概要

「心理実践実習」(180時間以上)は、本学附属の臨床心理相談センターや文京クリニック(心療内科、精神科)で対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討及びスーパーヴィジョン等を実施し、心理援助の方法を多角的に学修する。

到達目標

「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、事例の検討やスーパーヴィジョンを通して当目標の到達を目指し学修する。

成績評価方法

ケース検討の視点、及びスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○		○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>1)～60) 本学附属の臨床心理相談センターや文京クリニック(心療内科、精神科)等で対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討を加え、心理援助の方法を多角的に学修する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解について、重点的に検証していく。</p>	<p>各自が対応した心理臨床事例のスーパーヴィジョンを中心にしたグループワークの実施。左記視点に則って事例の支援計画が構築できているかどうか、検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	4	1年	通年(後期)
担当者名	西村 秀明、小山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

「心理実践実習」(180時間以上)は、本学附属の臨床心理相談センターや文京クリニック(心療内科、精神科)で対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討及びスーパーヴィジョン等を実施し、心理援助の方法を多角的に学修する。

到達目標

「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、事例の検討やスーパーヴィジョンを通して当目標の到達を目指し学修する。

成績評価方法

ケース検討の視点、及びスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○		○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>1)～60) 本学附属の臨床心理相談センターや文京クリニック(心療内科、精神科)等で対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討を加え、心理援助の方法を多角的に学修する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解について、重点的に検証していく。</p>	<p>各自が対応した心理臨床事例のスーパーヴィジョンを中心にしたグループワークの実施。左記視点に則って事例の支援計画が構築できているかどうか、検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	4	1年	後期
担当者名	西村 秀明、小山 典子、秋元 隆志、木元 卓也	関連する資格	公認心理師、臨床心理士	

授業概要

本学附属臨床心理相談センターや文京クリニック（心療内科、精神科）において、180時間以上、指導教員の陪席を含め実際に事例を継続担当していく。具体的には、1年後期、2年通年の18ヶ月（約60週）において、平均2週間に1回（約30週）の面接を3名以上担当することにより、教員等による事前事後指導を含め1事例2時間と換算して180時間以上を確保する（いずれにしても心理面接等を計90セッション以上実施することとなる）。

到達目標

- ・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。
- ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。
- ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。

成績評価方法

心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>随時、1年後期、2年通年の18ヶ月（約60週）の間に180時間以上、附属臨床心理相談センター及び附属文京クリニックにおいて、実習担当教員の指導のもとに陪席を含め実際に事例を担当する。</p> <p>また、附属臨床心理相談センターにおける電話相談（インテーク）の実務にもローテーションを組んで従事する。</p> <p>担当した事例については、ケースファイルあるいはカルテに記入するとともに、定期的に（必要のある場合は随時）指導教員がスーパーヴィジョンを実施する。</p>	<p>心理臨床の実践。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床にかかわるあらゆる理論、技法などについて、常に並行して学習していくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

備考

科目名	看護臨床コンサルテーション特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	小山 典子	関連する資格		

授業概要

リエゾン精神看護の理論やモデル、指標を用いながら現象をとらえ、アセスメント・実施方法を学ぶ。
 “リエゾン；liaison”には、つなぐ、運携する、橋渡しをするという意味がある。精神看護領域と他の看護領域を“つなぐ”機能を果たす。患者のケアにおいてbio-psycho-socialを統合した、全人的で包括的なケアを行うことを臨床心理学の視点から学ぶことを目標とする。

到達目標

精神的諸問題を抱える患者・家族・援助者のアセスメントおよびケア（アプローチ方法）について理解できる。
 コンサルテーション理論を理解し、自分の実践に活用する基盤ができる。

成績評価方法

受講態度（グループワーク含む）、総合レポートにより評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)	○	○	○				50	
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度					○		10	
プレゼンテーション								
グループワーク	○	○	○	○	○		20	
演習	○	○	○	○	○		20	
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 精神医学・看護におけるコンサルテーション・リエゾン活動	
2) コンサルテーション概論	
3) コンサルテーションのプロセス	
4) コンサルテーションのプロセス実際	グループワーク
5) コンサルテーションの実際	グループワーク
6) 看護者側から焦点を当てたコンサルテーション	
7) アセスメントと直接ケア 診断と治療	
8) アセスメントと直接ケア さまざまなアプローチ 事例を通じた理解	
9) アセスメントとケアの実際	グループワーク
10) アセスメントとケアの実際	グループワーク
11) アセスメントとケアの実際	グループワーク
12) アセスメントとケアの実際	グループワーク
13) 対人援助職のメンタルヘルス支援	
14) 企業組織のメンタルヘルス支援	
15) 看護の現場に活かすチーム医療	
授業外学習	
精神科・一般科患者の精神的アセスメントのため、DSMによる診断基準を復習しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書：リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために， 野末聖香編，医歯薬出版株式会社	看護臨床心理学特論 集団精神療法演習

備考

科目名	臨床心理査定演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	2	2年	前期			
担当者名	酒木 保		関連する資格				
授業概要 臨床心理査定演習 に引き続き、心理検査の実習を行う。 まず、MMPIについてその原理、実施法、解釈法を学習し、次に投影法としてのロールシャッハ法を学習する。 特に、ロールシャッハ法では、多くの実例について解釈法を実習する。 主として片口・Kloper法で行う。							
到達目標 各心理検査について基本的な実施、解釈が、可能になること			成績評価方法 提示する実例について解釈を課し、その程度によって評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○					50
授業態度・授業参加度	○						30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○						20

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 面接法による査定1	
2) 面接法による査定2	
3) 面接法による査定3	
4) MMPI 1を用いた事例	
5) MMPI 2を用いた事例	
6) 乳幼児発達検査を用いた事例	
7) 老人の知能のアセスメント	
8) 心理検査から見た患者	
9) 心理検査から見た患者	
10) 心理検査から見た患者	
11) 心理検査から見た患者	
12) 心理検査から見た患者	
13) 心理検査から見た患者	
14) 心理検査から見た患者	
15) 総括	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
片口安史；新・心理診断法 金子書房	臨床心理査定演習、投映法特論、投映法演習

備考

科目名	投映法演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	2	2年	後期
担当者名	酒木 保	関連する資格		

授業概要

投映法特論で学習した事項を基礎に、応用的な演習を行う。
 主としてロールシャッハ法について、事例のスコアリング及び解釈を学生自身が行い、それを発表、討議する。
 なお、必要に応じて片口法に加えてエクスナー法についても触れる。
 なお、T A Tについてもその実施法、解釈法の概要を説明、演習する。

到達目標

主としてロールシャッハ法について、臨床場面でアセスメントに応用可能な解釈が可能になること。

成績評価方法

事例のスコアリング、解釈の実力によって評価する。出席、受講態度も併せ評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)	○						50	
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度					○		50	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション	
2) ロールシャッハ事例1 スコアリング	
3) 同 解釈	
4) 事例2 スコアリング	
5) 同 解釈	
6) 事例3 スコアリング	
7) 同 解釈	
8) 事例4 スコアリング	
9) 同 解釈	
10) T A T 概要	
11) 同 実施法	
12) 同 解釈法	
13) 同 事例1	
14) 同 事例2	
15) 総括	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
小野和雄；ロールシャッハテストその実施、解釈、臨床例 川島書店（教科書） 片口安史；新・心理診断法 金子書房（参考書） 坪内順子；T A T アナリシス 垣内出版（参考書）	投映法特論、臨床心理査定演習 ・ 始め、臨床心理関係の全科目

備考

科目名	臨床心理実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	2年	通年(前期)
担当者名	西村 秀明、榎本 俊哉	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

心理臨床に携わる基本姿勢と技能について学習するとともに、精神病院や児童相談所など指定した諸機関において実習する。また、附属文京クリニックをはじめ、任意に現場において臨床経験を重ねるとともに、スーパーヴィジョン等を通して実践家の養成を目指す。

到達目標

- ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。
- ・臨床心理士としてのアイデンティティを確立する。

成績評価方法

実習先での評価、及びスーパーヴィジョン、ケース検討、レポート等を通して総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○		○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション	○	○		○	○		30
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		50

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 実習オリエンテーション 2) 精神保健福祉活動について 3) 精神科医療の現状について 4) 病院心理臨床について 5) ~ 15) 心理臨床現場実習及びスーパーヴィジョン	2) ~ 4) 小レポート 5) ~ 15) 実習記録により自らの臨床姿勢・技能について再検討を加える。 実習先の評価により、自らの問題点を抽出し、心理臨床の実務家としての資質の向上を図るための検討を加える。
授業外学習	
これまで学習した心理臨床に関わる諸技能を身につけ、それぞれの実習先施設の機能を充分認識したうえで、自らの実習課題、視点を設定して臨むこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。	心理臨床に関わるすべての科目。

備考

科目名	臨床心理実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	2年	通年(後期)
担当者名	西村 秀明、榎本 俊哉	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

心理臨床に携わる基本姿勢と技能について学習するとともに、精神病院や児童相談所など指定した諸機関において実習する。また、附属文京クリニックをはじめ、任意に現場において臨床経験を重ねるとともに、スーパーヴィジョン等を通して実践家の養成を目指す。

到達目標

- ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。
- ・臨床心理士としてのアイデンティティを確立する。

成績評価方法

実習先での評価、及びスーパーヴィジョン、ケース検討、レポート等を通して総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○		○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション	○	○		○	○		30
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		50

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>16)～30) 臨床心理相談センター及び文京クリニックにおける実務実習とケース・カンファレンス</p>	<p>16)～30)</p> <p>心理臨床の専門家としての姿勢や技術について、自己洞察していくための問題点をレポートする。</p> <p>総括的なスーパーヴィジョンを行う。</p>
<p>授業外学習</p>	
<p>これまで学習した心理臨床に関わる諸技能を身につけ、それぞれの実習先施設の機能を充分認識したうえで、自らの実習課題、視点を設定して臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

備考

科目名	臨床心理実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	1	2年	前期
担当者名	西村 秀明、榎本 俊哉	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

一年次に学習した心理臨床を基礎に、実際の心理臨床の実習を行う。
 即ち、臨床心理相談センターにおけるインテイク面接の実習、学生が担当した陪席や実施したアセスメント、カウンセリングを事例研究会に提出し、教員のスーパービジョン、討議を行う。

到達目標

心理臨床に関する基本的な知識、実際のアセスメント、カウンセリングの技術を養成すること

成績評価方法

事例提出、事例検討への積極的参加の度合い、及びレポートにより評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○		○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション	○	○		○	○		30
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		50

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>1)実際に臨床心理業務の現場において実務実習に従事する。 2)実習終了後は「現場実習報告会」を開催し、カンファレンスを行う。 3)希望者は、附属文京クリニックで心理臨床業務の実務に従事し、スーパーヴィジョンを受ける。</p>	<p>臨床業務に従事するための基本的な姿勢について講義するとともに、実習を受けるにあたって指針等のプレゼンテーションを行う。</p>
授業外学習	
<p>心理面接における基本的な姿勢や諸技法について充分学習して臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>その都度提示する。</p>	<p>心理臨床に関する全科目</p>

備考

科目名	患者論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	西村 秀明	関連する資格		

授業概要

人間は誕生から死までその生涯の中で、常に他人の介助が必要となる可能性を有している。人類のスタートより、介助する者とされる者の関係があったと考えられる。現代社会の下での患者とは何か、治療者とは何かを問う。また、社会的自己としての危機と症状化との関連についてその心理機序を検討するとともに、自己回復に至る過程を患者自身の体験を通して明らかにし、治療者としての位置を明確にすべく患者から学ぶ。

到達目標

- ・治療者 患者関係において、治療者としての位置を知る。
- ・治療者 患者関係における、患者側の心性を理解する。

成績評価方法

定期試験、及びレポートなどで総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					50
小テスト、授業内レポート	○	○		○			10
宿題、授業外レポート	○	○		○			20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○		○		20
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 精神疾患と法律 取り締まりの対象とされる患者	
2) 患者からみた精神科医療、及び偏見・差別	小レポート
3) 現代社会とストレス・うつ、及びその対応に対峙する社会的価値観	
4) 呪縛の構造：教育の歴史と反発達論	
5) 不登校理解の変遷と精神神経学会における批判	
6) ひきこもり理解の変遷、及び「不登校」「ひきこもり」に映る現代社会	小レポート
7) 被害者学を通して見た患者・遺族の心理	
8) 統合失調症の理解と臨床心理的地域援助	
9) アルコール依存症の臨床 初めに人酒を呑み、次に酒酒を呑み、後に酒人を呑む	小テスト
10) 高齢者の精神科心理臨床 認知症に見える世界	小テスト
11) 当事者との対話 : 統合失調症 当事者との対話 : アルコール依存症	グループワーク(対談)/レポート
12) 当事者との対話 : 統合失調症 当事者との対話 : アルコール依存症	グループワーク(対談)/レポート
13) 当事者との対話 : 統合失調症 当事者との対話 : アルコール依存症	グループワーク(対談)/レポート
14) 当事者との対話 : 統合失調症 当事者との対話 : アルコール依存症	グループワーク(対談)/レポート
15) 当事者との対話 : 統合失調症 当事者との対話 : アルコール依存症	グループワーク(対談)/レポート
授業外学習	
『人間の不適応を社会病理学的に捉え直すとはどのような様相で見えてくるか』というテーマであり、社会学系の文献での学習を怠らないこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。	臨床心理学特論 ・ 保健医療分野に関する理論と支援の展開

備考

科目名	病院臨床心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	原田 雅史	関連する資格		

授業概要

病院臨床での臨床心理士の活躍の場は、精神科、総合病院、小児科、周産期医療、終末期医療、移植医療、遺伝カウンセリングなど、どんどん広がってきています。医療保健領域のどこで働いたとしても、自分のやるべきことを主体的に見いだしていけるような、臨床心理士としての基本的な視点を、さまざまな事例を通して、できる限り実践的に学んでいきます。

到達目標

病院臨床における臨床心理士の役割について、他職種との協働の重要性まで含めて、具体的なイメージがもてるようになること。

成績評価方法

意欲、姿勢
試験（最終日に実施）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○	○				50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○	○	○		30
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 病院における心理臨床の広がり	
2) 医療と社会	
3) 人生と病い	
4) ト라우マとは何か？	
5) 対象喪失について	
6) こころが病むということ	
7) こころが健康であるとはどういうことか？	
8) ケアとキュア	
9) 関わり	グループワーク
10) 事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
11) 事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
12) 事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
13) 事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
14) 事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
15) 試験	
授業外学習	
事前に配る資料をよく読み込んでくること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜、プリントを配布します。	精神医学特論、心身医学特論、医療倫理

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	4	1年	通年(前期)			
担当者名	高田 晃、酒木 保、西村 秀明、秋元 隆志、三島 瑞穂、小山 典子、榎本 俊哉		関連する資格				
授業概要 この特別研究は修士論文として完成させていくものであり、各自研究課題を主査、副査の教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていく。その過程の中で、主査、副査に随時指導を受け、発表し、よりよい論文に仕上げていくことをねらいとする。							
到達目標 研究課題について研究計画を立てる。 研究計画に従って修士論文として完成する。			成績評価方法 論文作成過程、発表の内容、口頭試問における内容、論文の内容等を総合的に判断する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○	○	100
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1)	主査、副査の指導の下、仮題目にそって調査研究などを推し進める。7月の中間報告会での発表を通して、他の教員からの意見を求めディスカッションを深め、その意見も参考にしながらさらに研究を進めていく。	
2)		
3)		
4)		
5)		
6)		
7)		
8)		
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
指導教員の指摘を理解し、よく調べること。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	1年	通年(後期)
担当者名	高田 晃、酒木 保、西村 秀明、秋元 隆志、三島 瑞穂、小山 典子、榎本 俊哉	関連する資格		

授業概要

この特別研究は修士論文として完成させていくものであり、各自研究課題を主査、副査の教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていく。その過程の中で、主査、副査に随時指導を受け、発表し、よりよい論文に仕上げていくことをねらいとする。

到達目標

研究課題について研究計画を立てる。
研究計画に従って修士論文として完成する。

成績評価方法

論文作成過程、発表の内容、口頭試問における内容、論文の内容等を総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○	○	100
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 7月の中間報告後、主査、副査の指導の下にさらなる調査研究を進め論文として執筆を進め、12月の報告会ではまとめの発表を行う。1月の中頃には修士論文として提出。その後審査委員会による口頭試問を受ける。	
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
指導教員の指摘を理解し、よく調べること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

備考

科目名	特別研究						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	8	2年	通年(前期)			
担当者名	高田 晃、酒木 保、西村 秀明、秋元 隆志、三島 瑞穂、小山 典子、榎本 俊哉	関連する資格					
授業概要 この特別研究は修士論文として完成させていくものであり、各自研究課題を主査、副査の教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていく。その過程の中で、主査、副査に随時指導を受け、発表し、よりよい論文に仕上げていくことをねらいとする。							
到達目標 研究課題について研究計画を立てる。 研究計画に従って修士論文として完成する。				成績評価方法 論文作成過程、発表の内容、口頭試問における内容、論文の内容等を総合的に判断する。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○	○	100
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 1年生前期では、先行研究を調べ研究課題の方向を決めて、主査、副査と相談して研究計画を立てる。そして前期の終わり頃には、それまでの研究経過について主査、副査に報告し指導を受ける。	
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
指導教員の指摘を理解し、よく調べること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

備考

科目名	特別研究						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	8	2年	通年(後期)			
担当者名	高田 晃、酒木 保、西村 秀明、秋元 隆志、三島 瑞穂、小山 典子、榎本 俊哉	関連する資格					
授業概要 この特別研究は修士論文として完成させていくものであり、各自研究課題を主査、副査の教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていく。その過程の中で、主査、副査に随時指導を受け、発表し、よりよい論文に仕上げていくことをねらいとする。							
到達目標 研究課題について研究計画を立てる。 研究計画に従って修士論文として完成する。				成績評価方法 論文作成過程、発表の内容、口頭試問における内容、論文の内容等を総合的に判断する。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○	○	100
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 前期に主査、副査の指導の下に立てた研究計画に従って先行研究や自ら調査等を実施して情報収集などに努め、それを基に主査、副査の指導を仰ぎながら、3月31日までに修士論文の仮題目を提出し、研究の方向性を決定する。	
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
指導教員の指摘を理解し、よく調べること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

備考